

地球の恵みを、社会の望みに。

 **エアウォーター株式会社**

証券コード:4088

# AIR WATER REPORT

第23期

## 株主報告書

2022年4月1日～2023年3月31日

### CONTENTS

株主の皆様へ	01
セグメント概況	03
新体制スタート 〈松林新社長に聞く〉	05
トピックス	06
【特集】	
パーパス「地球の恵みを、社会の望みに。」のもと 社会課題の解決に貢献し、成長していく 「アグリ&フーズグループ」	07
連結財務諸表	09
インフォメーション	10





代表取締役会長・CEO 豊田喜久夫

## 売上収益1兆円を通過点として 新たな企業ステージへ

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

2022年度における当社グループの業績といたしましては、売上収益1兆49億1千4百万円（前年比113.1%）、営業利益621億8千1百万円（前年比95.4%）、親会社の所有者に帰属する当期利益401億3千7百万円（前年比92.9%）となり、2010年からグループ全社を挙げて取り組んできた「売上収益1兆円」を達成いたしました。

売上1兆円を超え、新たな企業ステージに立ったことで、社会からの期待は飛躍的に高まると考えております。当社グループが保有する「多様な事業、人材、技術」と「地域密着の事業基盤」を最大限に活かし、グループシナジーの創出を追求するとともに、既存事業の収益力に磨きをかける「深掘り」と、次の成長を担う事業機会を発掘・育成する「探索」による「両利きの経営」の実践に努めます。

当社グループは、コスト上昇が進む経済状況の中、各事業領域でグループ会社の統合再編をはじめとした事業構造改革やデジタルトランスフォーメーション（DX）を推し進めるとともに、総資産の見直しや人員の最適配置に重点を置き、収益力の強化を図ります。

また、これまで以上に当社グループを成長させるためには、人的資本や知的財産、ブランド力などの無形資本に対する投資が重要となります。特に人的資本は、人が事業を創り、事業が人を創る「人と事業は両輪」の関係実現に不可欠です。これからも人と事業を掛け合わせ、当社グループの価値向上に努めてまいります。

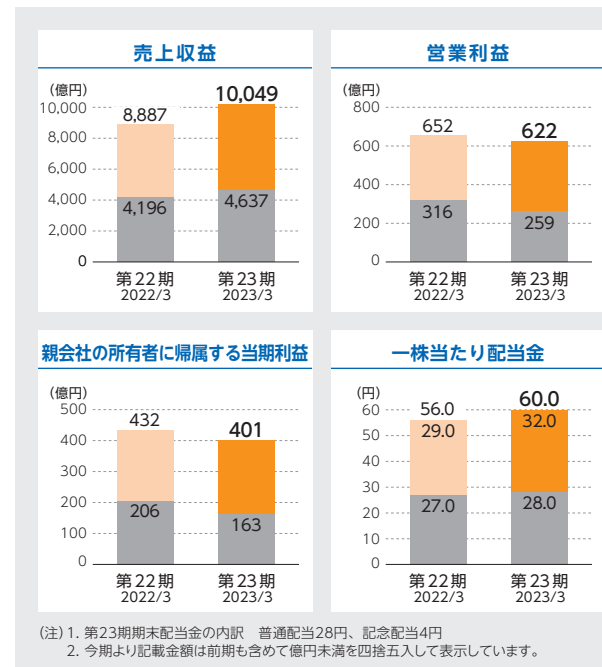
さらに、当社グループは、事業活動を通じて人々の暮らしや産業になくてはならない製品・サービスを生み出し、社会課題解決に貢献してまいります。

当事業年度の期末配当につきましては、「売上収益1兆円」を達成したことから、4円の記念配当を実施し、32円とさせていただきます。

この結果、当事業年度の年間配当は、中間配当28円、期末配当28円、記念配当4円を合わせて、1株当たり60円となります。

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

### 連結業績ハイライト



創業者精神を持って  
空気、水、そして地球にかかわる  
事業の創造と発展に、英知を結集する

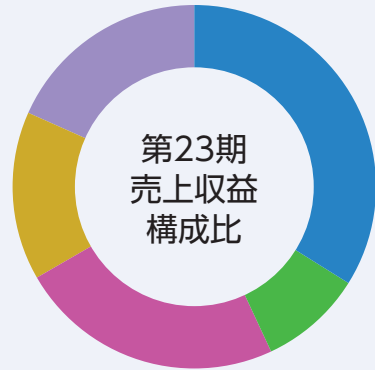
2050年 エア・ウォーターグループの目指す姿

### 地球、社会との共生により循環型社会を実現する

- 地球環境および社会の変化に対応し、経済価値と社会価値を持続的に提供する
- 企業活動を通じて資源循環型社会を実現し、環境負荷をゼロ、さらに地球環境を再生する
- 地域社会、顧客から選ばれ続け、働く人々のWell-beingを実現する



# セグメント概況



デジタル&インダストリー  
34.1%

エネルギーソリューション  
9.1%

ヘルス&セーフティー  
23.5%

アグリ&フーズ  
15.1%

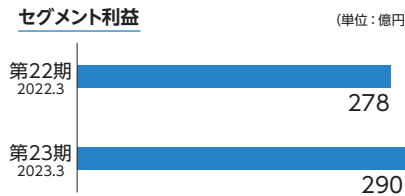
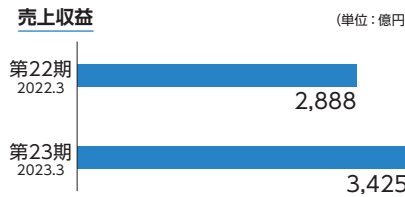
その他の事業  
18.1%

2023年6月1日付で、海外・エンジニアリングユニット、エンジニアリングセンターおよびエア・ウォーター・エンジニアリング株式会社を集約・再編し、グローバル&エンジニアリンググループを新設しました。

## 地球環境



[売上収益] 3,425億円

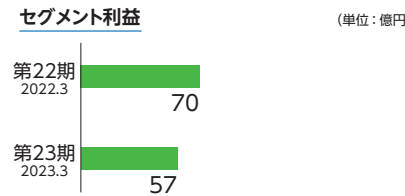
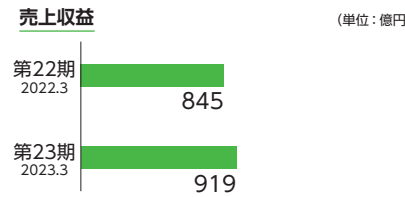


### 概況

エネルギー価格の高騰や物価上昇等の影響を受ける中、こうしたコスト上昇に対して、生産性の向上や徹底した価格改定に取り組んだほか、インドでの産業ガス供給事業が好調に推移するとともに、エレクトロニクス事業が順調に推移した結果、増収・増益。



[売上収益] 919億円



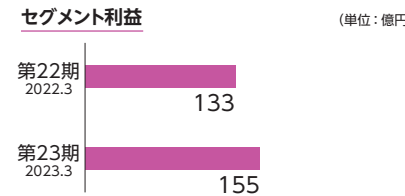
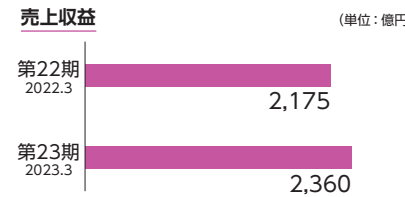
### 概況

エネルギーと環境領域を融合し、家畜ふん尿などの未利用資源を活用したカーボンニュートラルに寄与するエネルギー供給に向けた新たなビジネスモデルの構築を進行中。LPガスの販売単価上昇により増収となるも、原料ガス不足等によるドライアイスの販売停滞が影響し、減益。

## ウェルネス (健やかな暮らし)



[売上収益] 2,360億円

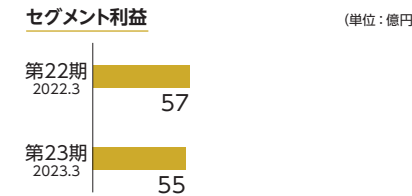
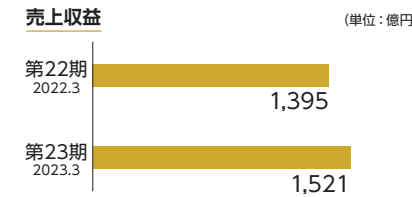


### 概況

医療用酸素の安定供給や病院設備のリニューアル工事、SPD (病院物品物流管理) による病院経営の効率化など、需要を着実に取り込んだほか、在宅医療や歯科分野に加え、衛生材料をはじめとしたコンシューマーヘルス分野が順調に推移した結果、増収・増益。



[売上収益] 1,521億円

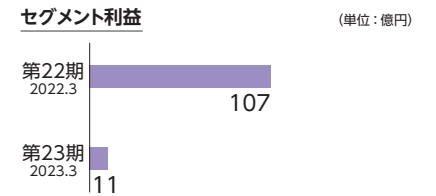
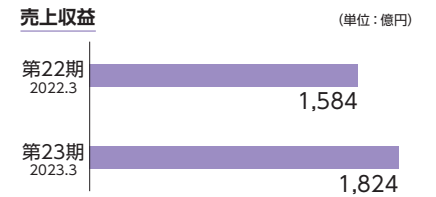


### 概況

ハム・デリカ製品の販路拡大や業務用食品需要の回復、コスト上昇に対応した価格改定の進展により増収となるも、鶏卵や肥料・資材等の原材料コストが高騰したこと、また、M&Aによる新規連結効果が寄与したものの土地売却益を前年に計上していた反動から、わずかに減益。



[売上収益] 1,824億円



### 概況

物流事業は、自社物流ネットワークの拡充による荷扱量増加の影響や受託料金の適正化に取り組んだことから、堅調に推移。電力事業は、FIT制度により電力の販売価格が固定化されているためコスト上昇分を価格転嫁できず、年度を通じて厳しい状況で推移。

(注) 1. 当第3四半期連結会計期間より、従来「エネルギーソリューション」に区分していた木質バイオマスによる電力事業を「その他の事業」に移しました。なお、前連結会計年度のセグメント情報については、変更後の測定方法により作成したものを記載しています。  
2. 今期より記載金額は前期も含めて億円未満を四捨五入して表示しています。

# 新体制スタート〈松林新社長に聞く〉

## — エンジニアリングで培った手法を原点に、新たな企業価値を創造 —

2023年4月1日付で代表取締役社長・COO(最高業務執行責任者)に就任した松林良祐にインタビューしました。

### — 社長就任の心境と抱負は？

このたび社長に就任し、当社の業務執行の先頭に立つ大役を担うことになり、身の引き締まる思いです。私の役割は会長の豊田とともに2030年に向けその先の成長戦略を描き、先導することです。エンジニアリング部門に長く携わってまいりましたが、エンジニアリングは「多くの分野にわたる技術や知識を結集して課題を解決し、新たな価値を創造していくこと」であり、正に私の活動の原点です。当社には多様な事業、人材、技術が存在しています。これらを掛け合わせ「地球環境」、「ウェルネス」の2つの成長軸で事業活動をリードしたいと考えています。

### — 取り組むべき課題と今後の事業展開について

昨年度からエア・ウォーターの本体組織とグループ会社群が一体となったグループ経営体制「ユニット制」がスタートいたしました。事業会社がグループ経営に参画し連携の深化、各ユニットの成長に繋がっています。今年度はさらに環境変化に対応し、既存事業の収益力向上と新事業育成を進め、社会課題の解決に挑戦し続けるエア・ウォーターグループを目指します。そのためにも、グループ全従業員にチャレンジの機会を提供し、さらなる人材の育成・強化を図ります。

今後の事業展開については、インド・北米を注力地域とし、産業ガスサプライチェーンネットワークを拡充するとともに、M&Aを積極的に推進し、産業ガスと関連機器・エンジニアリング事業を拡大いたします。

これまで当社の海外事業は事業単位で展開していましたが、グループ全体として地域特性や事業環境に応じた運営・管理が必要な時期にきています。今年度は海外事業を事業分野、地域のマトリックスで再編・強化し、より一層の事業成長を成し遂げる体制を整えてまいります。

### — 株主・投資家の皆様へ

2030年度に目指す姿「<sup>テラウエル</sup>terrAWell 30」に向けて、社会課題の解決を通じた新たな企業価値の創造を実現し、経済的価値と社会的価値の両立を目指します。株主・投資家の皆様におかれましては、一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役社長・COO

#### 松林 良祐

1988年入社、技術畑で産業ガス関連設備工事や機器・プラント開発に従事。2016年からは海外での新規事業構築を主導。2018年6月当社取締役エンジニアリング統括室担当、AIR WATER AEMRICA INC.取締役社長、2022年6月当社代表取締役副社長執行役員及び最高業務執行責任者。座右の銘は「進取果敢」



## Topics トピックス

### グローバル&エンジニアリング

#### 堺事業所を拡張しエンジニアリング体制を強化

当社堺事業所(大阪府)に、総合エンジニアリングセンターを建設するとともに、深冷空気分離プラントの製作を行う大型製缶工場を増築、2025年4月に稼働開始の予定です。複数拠点に分散していた深冷空気分離プラントの開発・設計・製作・運転・保守部門を集約し、小型から大型までのフルレンジに対応できるエンジニアリング体制をさらに強化します。また、製缶工場の製造能力を約2倍に増強し、海外展開や大手半導体デバイスメーカーからの旺盛な産業ガス需要にも対応できる体制を構築します。



新堺事業所パース図  
(左) 大型製缶工場  
(右) 総合エンジニアリングセンター(仮称)

### エネルギーソリューション

#### 独自の垂直ソーラー発電システムを開発

太陽電池モジュールメーカーのルクサーソーラー(株)と共同で、世界初となる駐車場併用タイプの垂直ソーラー発電システム「VERPA(ヴァルパ)」を開発、2023年5月より販売を開始しました。地表面からモジュール最下部までの高さを2m以上確保することで、運転者や歩行者の視線を遮らず安全性に配慮するとともに、設置面積の省スペース化や豪雪による損壊防止を実現しました。既に駐車場など他用途で使用している土地への導入によって、国内の太陽光発電の適地不足解消にも繋がり、牧草地や農道脇に設置することで酪農家や農家の収益向上にも寄与します。

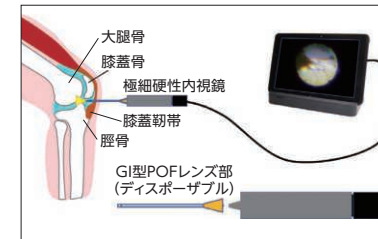


北海道札幌市豊平区の自社用地に設置した「VERPA」の実証機

### ヘルス&セーフティー

#### 世界初、極細ディスポーザブル内視鏡の開発に成功

慶應義塾大学と共同で、GI型POF(屈折率分布型プラスチック光ファイバ)技術を応用した世界初の極細硬性内視鏡の開発に成功、2024年の実用化を目指しています。先端部分が0.1~0.5mmと注射針レベルに細いため、関節内視鏡による手術前検査や手術後の経過観察が容易になるとともに、局所麻酔のみで対応でき、患者の身体的負担を軽減させます。また、低コストで製造でき注射針同様に使い捨て可能となり、患者・医療現場双方のメリットが期待できます。



極細硬性内視鏡による膝関節内検査イメージ





パーパス「地球の恵みを、社会の望みに。」のもと社会課題の解決に貢献し、成長していく

# アグリ&フーズグループ

1979年に液化窒素を使った冷凍食品からスタートしたアグリ&フーズグループは「ウェルネス(健やかな暮らし)」の成長軸において、今後のさらなる成長が期待されるグループのひとつです。この特集ではアグリ&フーズグループにおける注目事業、バリューチェーンと、社会課題の解決への取り組みについてご紹介いたします。

## アグリ&フーズグループの注目事業

「食」に対するニーズの変化に対応し、「調理の時短・簡便」「ストック」「健康志向」に対応する長期保存可能な冷凍野菜ミックスや冷凍スイーツを中心に、ラインアップを拡大。

さらに2023年4月にECサイトをリニューアルし、販売拡大を一層進めています。

ECサイトのご案内は裏表紙をご覧ください。

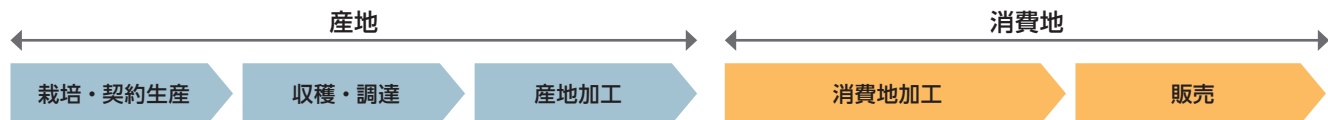
今後も成長が予想される冷凍野菜事業において、アグリ&フーズグループでは、北海道の契約農家で栽培した野菜や、グループ商品のハムを原料として活用するなどのこだわりで、高度な加工技術を用いた付加価値の高い商品を開発しています。



「レストランの味をご家庭に」がコンセプトの「CHEFLLY(シェフリー)」ブランドの商品

## アグリ&フーズグループのバリューチェーン

既存の「地域事業」「物流基盤」を活用し、産地(主に北海道)から消費地(関東・関西)までの物流・加工機能を強化。生産者から消費者を切れ目なく結ぶ中で必要な形に加工し、タイムリーにお届けすることで、ロスの少ないバリューチェーンを構築します。



**物流機能の強化、新販路開拓**

- 特に北海道で、タイムリーに集荷・輸送、選別、保管可能な物流体制を構築
- 産直事業で地域事業会社と連携出店

**加工機能の強化**

- 加工用を前提として農産物調達力を強化
- 消費地(関東・関西)加工で顧客ニーズにタイムリーに対応

**ウェルネスへの貢献**

- 健康食と宅配事業を組み合わせ、新事業を創出

それぞれのプロセスで社会課題の解決に取り組む

## 社会課題の解決に向けて

グループや企業の垣根を越えた連携と協業で、「フードロス低減」、「食料自給の安定化」などの社会課題の解決に向けて取り組んでいます。

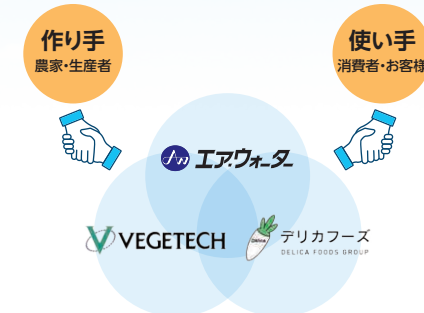


熊本低温物流センター建設イメージ図

## 物流機能の強化

フードロスの低減や食料自給率の向上を目的とし、熊本県玉名市に低温物流センターを新設します。(2024年2月に稼働予定)

チルド倉庫を含む3温度帯に対応可能な倉庫を新設し、JA選果場からの出荷の効率化、荷役作業の時間の短縮、共同輸送による積載率の向上など持続可能な物流体制の強化により、農産加工技術と物流インフラの機能を組み合わせた新しい農産流通モデルの構築を目指します。



協業により、目指す姿

## 加工機能の強化

2023年2月に、(株)ベジテックとデリカフーズホールディングス(株)との3社協業をスタートしました。青果物の生産から販売までのバリューチェーンにおいて、相互の調達・加工・販売・物流機能を活用することで、国内青果物流通における垂直統合モデルを構築します。また、これらの協業を通じて作り手(農家・生産者)と使い手(消費者・お客様)の持続可能な成長と農業の成長産業化を図り、食料安全保障や食料自給率の向上、フードロスの削減といった社会課題の解決にも寄与していきます。



スクエアキッチンURL  
<https://squarekitchen.awi.co.jp/>



## ウェルネスへの貢献

ウェルネスにかかわる事業の創造、開発、発信拠点である「エア・ウォーター健康都(大阪府摂津市)」の1階エリアに、健康をサポートするおいしい食事、ドリンク、スイーツを提供する新しいコンセプトのカフェ店舗「スクエアキッチン」をオープンします。(2023年9月を予定)

グループの医療、福祉・介護、農業・食品分野の技術やビジネスモデルの融合はもとより、地域住民の皆様、国内外の専門機関との共創により、お客様の「心」と「体」と「食」をバランスよく整え、楽しみながら「継続できる健康インフラの構築」に貢献します。

## ■ 連結財政状態計算書(要約)

(単位：百万円)

	当連結会計 年度 2023年3月31日	前連結会計 年度 2022年3月31日
(資産の部)		
流動資産	431,139	376,889
非流動資産	660,505	645,141
<b>資産合計</b>	<b>1,091,645</b>	<b>1,022,031</b>
(負債・資本の部)		
負債		
流動負債	299,697	263,045
非流動負債	345,465	339,129
<b>負債合計</b>	<b>645,162</b>	<b>602,174</b>
資本		
資本金	55,855	55,855
資本剰余金	49,962	52,638
自己株式	△3,532	△4,838
利益剰余金	303,680	275,158
その他の資本の構成要素	24,266	16,317
親会社の所有者に帰属する持分合計	430,232	395,131
非支配持分	16,249	24,725
<b>資本合計</b>	<b>446,482</b>	<b>419,857</b>
<b>負債及び資本合計</b>	<b>1,091,645</b>	<b>1,022,031</b>

## ■ 連結損益計算書(要約)

(単位：百万円)

	当連結会計 年度 2022年4月1日～ 2023年3月31日	前連結会計 年度 2021年4月1日～ 2022年3月31日
<b>売上収益</b>	<b>1,004,914</b>	<b>888,668</b>
売上原価	△804,830	△689,555
<b>売上総利益</b>	<b>200,084</b>	<b>199,112</b>
販売費及び一般管理費	△150,379	△139,703
その他の収益・費用	9,974	3,822
持分法による投資損益	2,502	1,942
<b>営業利益</b>	<b>62,181</b>	<b>65,174</b>
金融収益・費用	△1,202	△945
<b>税引前当期利益</b>	<b>60,978</b>	<b>64,230</b>
法人所得税費用	△18,023	△17,823
非継続事業からの当期損益	△305	△142
<b>当期利益</b>	<b>42,649</b>	<b>46,263</b>
親会社の所有者	40,137	43,214
非支配持分	2,512	3,049

## ■ 連結キャッシュ・フロー計算書(要約)

(単位：百万円)

	当連結会計 年度 2022年4月1日～ 2023年3月31日	前連結会計 年度 2021年4月1日～ 2022年3月31日
営業活動によるキャッシュ・フロー	56,953	71,572
投資活動によるキャッシュ・フロー	△71,135	△53,154
財務活動によるキャッシュ・フロー	19,257	△6,622
現金及び現金同等物に係る 為替変動による影響	47	782
現金及び現金同等物の増減額	5,122	12,577
連結の範囲の変更に伴う現金及び 現金同等物の増減額	1,267	992
現金及び現金同等物の期首残高	59,554	45,983
現金及び現金同等物の期末残高	65,944	59,554

(注) 記載金額は百万円未満の端数を切り捨てて表示しています。

## 会社の概要

2023年3月31日現在

商号	エア・ウォーター株式会社
設立	1929年9月24日
資本金	55,855百万円
従業員数	634名(連結：20,109名)
本店・本社	大阪市中央区南船場2丁目12番8号

## 役員

2023年6月23日現在

代表取締役会長 最高経営責任者(CEO)	豊田喜久夫
代表取締役社長 最高業務執行責任者(COO)	松林良祐
取締役 専務執行役員	原圭太
取締役 常務執行役員	尾上英俊
取締役 常務執行役員	大塚茂樹
取締役 常務執行役員	田中豪
取締役*	坂本由紀子
取締役*	松井隆雄
取締役*	千歳喜弘
常勤監査役	柳澤寛民
常勤監査役	安藤勇治
常勤監査役*	恒吉邦彦
監査役*	林醇
監査役*	林信夫

※1 社外取締役 ※2 社外監査役

## 株式の状況

2023年3月31日現在

発行可能株式総数	480,000,000株
発行済株式の総数	229,755,057株
単元株式数	100株
株主数	26,745名

## 大株主(上位10名)

2023年3月31日現在

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
日本マスタートラスト 信託銀行株式会社(信託口)	31,789	13.89
株式会社日本カストディ銀行 (信託口)	14,491	6.33
三井住友信託銀行株式会社	7,936	3.47
日本製鉄株式会社	6,900	3.01
株式会社三井住友銀行	6,259	2.73
エア・ウォーター取引先持株会	5,987	2.62
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505001	5,486	2.40
全国共済農業協同組合連合会	4,951	2.16
株式会社北洋銀行	4,574	2.00
株式会社北海道銀行	4,113	1.80



## 株主メモ 2023年3月31日現在

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで

定時株主総会 毎年6月開催

基準日  
定時株主総会 毎年3月31日  
期末配当 毎年3月31日  
中間配当 毎年9月30日  
その他必要があるときは、あらかじめ公告して  
定めた日

株主名簿管理人及び  
特別口座の口座管理機関 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号  
三井住友信託銀行株式会社

(事務取扱場所) 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号  
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

(郵便物送付先) 〒168-0063  
東京都杉並区和泉二丁目8番4号  
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

(電話照会先) フリーダイヤル: 0120-782-031  
(受付時間 平日 9:00 ~ 17:00)

(ホームページURL) <https://www.smtb.jp/personal/procedure/agency/>

公告方法 電子公告により行います。ただし、事故その他の  
やむを得ない事由で行うことができない場合は、  
日本経済新聞に掲載します。

公告掲載URL <https://www.awi.co.jp/ja/ir/koukoku.html>

上場金融商品取引所 札幌、東京

## 株主優待についてのご案内

株主の皆様の日頃のご支援に感謝するとともに、当社グループの事業内容に対するご理解をより深めていただくことを目的として、株主優待制度を導入しています。詳細は、当社webサイトの株主優待制度のページからご確認いただけます。



<https://www.awi.co.jp/ja/ir/stock/hospitality.html>



## 製品・サービスサイトのご案内

主要グループ会社が製造・販売する多種多様な製品・サービス情報を紹介するwebサイトです。



<https://products.awi.co.jp/ja>



## ECサイトのご案内 -A&F marché-

A&F marché(アグリ&フーズマルシェ)は、エア・ウォーターアグリ&フーズ(株)が運営するハム・デリカ、スイーツ、冷凍野菜などの食材を販売するECサイトです。春雪・さぶーる・相模ハム・大山ハム、CHEFFLYなどの各ブランドが手がける、ご家庭用からギフト、業務用食材までのアイテムを豊富に揃えています。



<https://af-marche.com/>



地球の恵みを、社会の望みに。

 **エア・ウォーター株式会社**



環境に優しい  
【植物油インキ】を  
使用しています。

**UD FONT**

見やすく読みまちがえにくい  
ユニバーサルデザインフォントを  
採用しています。